

設計におけるBIM/CIM活用(現地踏査)

< 築堤・護岸の例 >

- 活用内容: 貸与資料を基に、現況施設の状況、予定地周辺の河川の状況、地形、地質、近接構造物及び土地利用状況、河川の利用形態等を把握し、合わせて工事用道路、仮排水路、施工ヤード等の施工の観点から現地状況をBIM/CIMモデルを活用して把握、整理する。
- 活用方法: 現地踏査で把握した情報を地形モデル等に反映し3次元的に確認するとともに、これらの情報を後工程に引き継ぐ。

＜築堤・護岸の例＞

- 活用事例: 淀川左岸線堤防構造照査他業務
- 現況地形データの取得(点群データ)に合わせ、既設構造物や重要インフラ施設などをモデル化した。
- 視覚化したモデルにより現地状況を確認するとともに、後工程の施工計画等における高圧電線など保安距離の照査に活用し、施工上の支障が生じないことを確認できた。

